

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	竹富町立船浦中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	11	12	10	0	33	

研究の概要

1. 研究主題

ひとりひとりの学力、学びの意識に目を向けて
～ガイド学習の実践を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年、全教科
(小規模校であることとガイド学習の実践は全教科で行うことが効果的であると考えられるから)

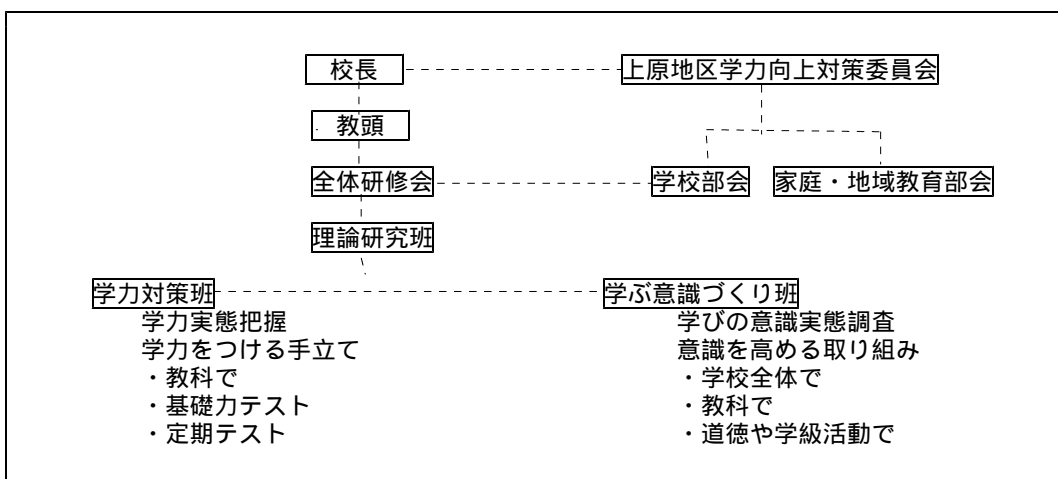
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ ひとりひとりの学力、学びの意識に目を向けて</p> <p>仮説 学習面において、ひとりひとりの学力を身につけさせるためには、基礎的・基本的な事項の定着は重要である。その指導過程において教師が生徒ひとりひとりの学力実態を把握し、個に応じた学習指導の改善や実践交流から互いに学び合い、指導方法を工夫していくことで、生徒ひとりひとりに確かな学力をつけていくことができるであろう。 生活面において、基本的な生活能力の基礎的・基本的な事項の定着は欠かせないものである。その場、その時になぜそうしなければならないのか、筋道を立てて考え、理解し、納得し、行動するという実践態度を育てていくことで、自分を豊かにし向上させていくという学びの意識につながり、ひいてはそれが生徒に確かな学力をつけることになるであろう。</p> <p>研究内容・方法 生徒・保護者・教師・地域の人々などの各種アンケートをとり、実態を把握する。 各教科とも、基礎的・基本的な事項を身につけさせるための取り組みを行い、研究授業などで互いに学び合う。 生徒の学ぶ意識を高めるために、学年間交流や校内研修などで研修を深め、各教科、学級活動、道徳など全教育活動において取り組む。 学力実態把握調査および学力の個人簿を作成し、ひとりひとりの学力を常に把握し、個に応じた学習指導を行い、お互いに情報交換を行うとともに、校内研修で 指導方法の工夫・改善を行う。</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ ひとりひとりの学力、学びの意識に目を向けて ～ガイド学習の実践を通して～</p> <p>仮説 学習面において、ひとりひとりの学力を身につけさせるためには、基礎的・基本的な事項の定着は重要である。その指導過程において、教師が生徒ひとりひとりの学力実態を把握し、個に応じた学習指導の改善や実践交流から互いに学び合い、指導方法を工夫していくことで、生徒ひとりひとりに確かな学力をつけていくことができるであろう。 ガイド学習について研究を進め、授業の中にその実践を取り入れていくことで、生徒の「主体的に学ぶ意識」がより高まり、確かな学力へとつながっていくであろう。 生活面においても、その場、その時になぜそうしなければならないのか、筋道を立てて考え、理解し、納得し、行動するという実践態度を育てていくことで、自分を豊かにし向上させていくという学びの意識につながり、ひいてはそれが生徒に確かな学力をつけることになるであろう。</p> <p>研究内容・方法 各教科とも、基礎的・基本的事項を身につけさせるための取り組みを行い、研究授業などで互いに学び合う。 生徒の主体的に学ぶ意識を高めるために、ガイド学習について研究を深め、授業の中で実践していく。 生徒の学ぶ意識を高めるために、学年間交流や校内研修などで研修を深め、各教科、学級活動、道徳など全教育活動において取り組む。 学力実態把握調査および学力の個人簿を作成し、ひとりひとりの学力を常に把握し、個に応じた学習指導を行い、お互いに情報交換を行うとともに、校内研修で指導方法の工夫・改善を行う。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ ひとりひとりの学力、学びの意識に目を向けて ～ガイド学習の実践を通して～</p> <p>仮説 学習面において、ひとりひとりの学力を身につけさせるためには、基礎的・基本的な事項の定着は重要である。その指導過程において、教師が生徒ひとりひとりの学力実態を把握し、個に応じた学習指導の改善や実践交流から互いに学び合い、指導方法を工夫していくことで、生徒ひとりひとりに確かな学力をつけていくことができるであろう。 ガイド学習について研究を進め、授業の中にその実践を取り入れていくことで、生徒の「主体的に学ぶ意識」がより高まり、確かな学力へとつながっていくであろう。 生活面においても、その場、その時になぜそうしなければならないのか、筋道を立てて考え、理解し、納得し、行動するという実践態度を育てていくことで、自分を豊かにし向上させていくという学びの意識につながり、ひいてはそれが生徒に確かな学力をつけることになるであろう。</p> <p>研究内容・方法 各教科とも、基礎的・基本的事項を身につけさせるための取り組みを行い、研究授業などで互いに学び合う。 生徒の主体的に学ぶ意識を高めるために、ガイド学習について研究を深め、授業の中で実践していく。 生徒の学ぶ意識を高めるために、学年間交流や校内研修などで研修を深め、各教科、学級活動、道徳など全教育活動において取り組む。 学力実態把握調査および学力の個人簿を作成し、ひとりひとりの学力を常に把握し、個に応じた学習指導を行い、お互いに情報交換を行うとともに、校内研修で指導方法の工夫・改善を行う。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

標準学力検査結果（平成14年度と平成15年度の全国偏差値の比較で）
 2年生数学... 2.9点上昇
 3年生国語... 3.0点上昇
 3年生英語... 1.9点上昇
 読書力診断テスト結果（平成14年度と平成15年度の読書力偏差値の比較で）
 2年生... 1.7点上昇
 県内達成度テスト結果（平成14年度と平成15年度の平均点の比較で）
 2年生国語... 5.6点上昇
 家庭学習ノート提出率
 9月（67%）10月（72%）11月（85%）12月（81%）

- ・個に応じた学習指導や補習的な指導がきちんと行われた教科では、学力がついたと言える。
- ・ガイド学習によって、少しずつ学習への主体的な意欲が増してきている。
- ・家庭学習ノートの取り組みによって、家庭における学習への意識が増し、家庭学習の時間が増えた。

2. 今後の課題

標準学力検査結果（平成14年度と平成15年度の全国偏差値の比較で）
 2年生国語... 4.1点下降
 3年生数学... 1.7点下降
 読書力診断テスト結果（平成14年度と平成15年度の読書力偏差値の比較で）
 3年生... 2.0点下降
 県内達成度テスト結果（平成14年度と平成15年度の平均点の比較で）
 2年生数学... 12.8点下降
 2年生英語... 6.7点下降

- ・教科により基礎的・基本的な内容が確実に身に付いていない分野があり、克服できていない。さらに細やかな個に応じた指導が必要と思われる。
- ・そのために、定期的に学力の個人簿についての話し合いや点検が必要である。
- ・家庭学習ノートのやり方や、定期テスト前の学習への取り組ませ方に工夫が必要である。

学力把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査（標準学力検査、読書力検査）の実施（年1回）
- ・学力実態の個人簿の作成

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成14年度の実践の研究紀要発行（平成15年度も発行予定）
- ・第36回沖縄県へき地教育研究大会八重山大会での実践発表（平成15年10月23日）
- ・竹富町学力向上対策委員会の実践発表会で発表予定（平成16年1月30日）
- ・本校のホームページにて発表予定（平成15年度3月）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無